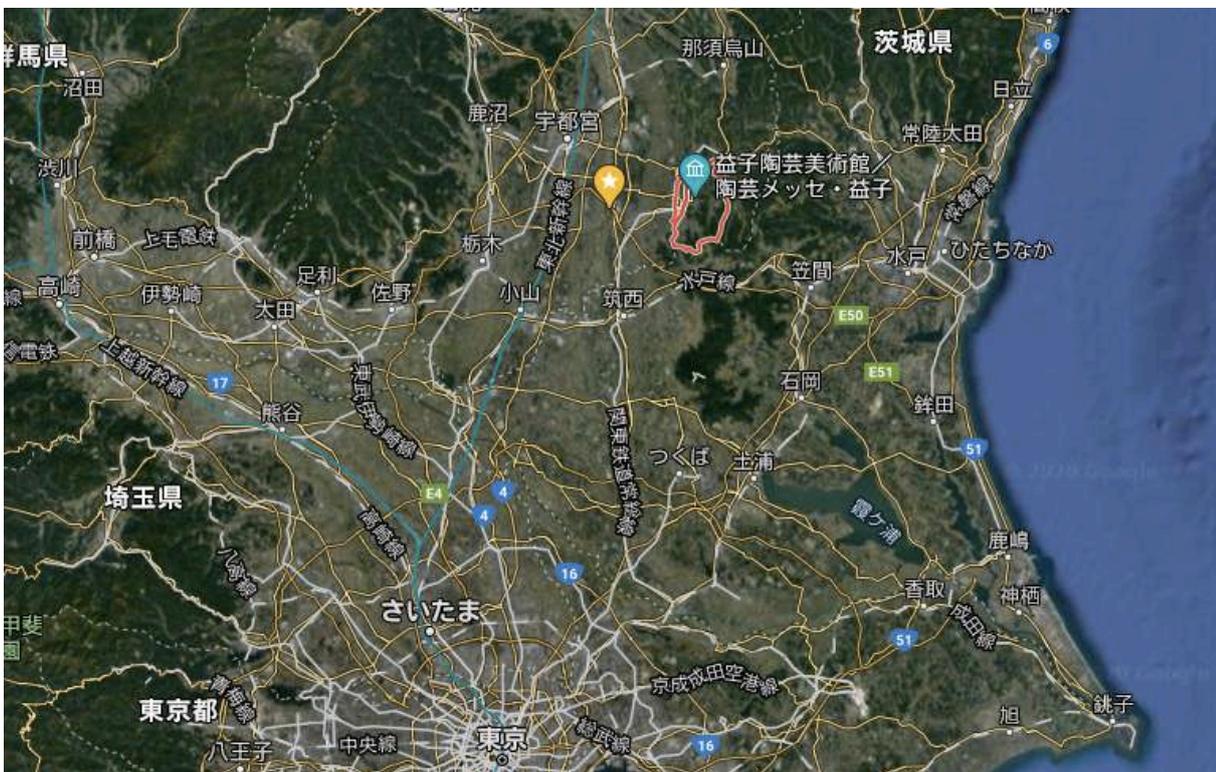


0. | 栃木県益子町について



位置

栃木県の南東部にあり、茨城県境の町です。都心から北東に車を走らせ約 2 時間。広い関東平野の先に丘陵や山が見えてきたら、そこが益子町です。

農業の町

益子の風景に彩りを添える作物に、稲、麦、蕎麦があります。益子町は、1 年を通してさまざまな農作物や果実が作られている農業の町。初夏には、一面の麦畑が黄金に輝き、伸び始めた稲の緑と黄金の麦畑のパッチワークの景色が広がります。蕎麦畑では 9 月の後半に秋蕎麦の小さな白い花が咲き、緑の中にたくさんの小さな白い点が見える風景に変化します。また、果物栽培もさかんで、りんご、ブルーベリー、梨、ブドウ、いちごが作られています。

窯業の町

益子町は、関東地方では茨城県の笠間市と並ぶ陶芸の産地で、春と秋には「陶器市」が開催されています。益子焼が始まったとされているのは、笠間焼に遅れること 100 年、江戸時代の末期。町内で良質の粘土が採れることがわかり、笠間で技術を磨いた陶工が窯を起こしたことがはじまりです。歴史が浅い産地とはいえ、のちに人間国宝となった濱田庄司が 1924 年に益子に移り住み、民藝運動の拠点の 1 つとなったことや、濱田とイギリス人の陶芸家、バーナード・リーチとの親交の影響もあって、海外の工芸ファンの間では「有田」や「伊万里」などと並んで「益子」の知名度は高いと言われています。

現在、窯元は、個人作家も含めて約 250。代々の家業を継いだ人もいれば、益子で陶芸を学び生業とするために他所から移住してきた人も多く、もともと移住者であった濱田の功績が大きい町なので、外から移り住む人に寛容な土地柄だと言われます。現在では、陶芸だけでなく、革の作家、ガラス工房、木工作家、染織作家、金工作家など、さまざまなジャンルのものでづくりの担い手が移り住むようになっています。

陶芸の産地となった理由には、良質の粘土が取れることだけではなく、八溝山地の南部の西側の麓に位置し、ゆるやかな斜面が多いことも要因のひとつです。陶磁器は粘土から作り、窯で高温で焼いて仕上げますが、江戸末期はもちろん電気やガスもなく、粘土でつくり薪を燃す「登り窯」が必要です。いくつかの部屋が連なる大きな窯の一番下の口から薪をくべて燃やし始めますが、一番下を低い位置に、上部を高く斜めに作ったほうが内部での良い対流が生まれ、内部をどこも一定の高温状態に保てることから、斜面地につくるのが理にかなっています。「登り窯」向きの斜面地が多く、粘土も採れ、薪となる松や雑木の手に入る里山の益子は、陶芸の産地となる条件が揃っていた場所です。

1. | 運営体制などの概要説明：地域コミュニティ・ヒジノワ

「1 | 誕生の経緯や運営」「2 | ヒジノワで展開されてきた文化的活動や学び合いの会」についてまとめています。

ヒジノワ café&space は、窯業と農業の里山・栃木県益子町で、有志で運営する地域のコモンスペースです。築 100 年の空き家をセルフリノベーションで改修し、2010 年の設立以来さまざまな文化表現の場や学び合いの拠点として、町内外のさまざまな人の交流を生んでいます。



設立経緯

2009 年 9 月、益子町の総合計画「ましこ再生計画」に盛り込まれた「文化芸術による地域振興」策の 1 つとして、風土に根ざしたアートフェス「土祭/ヒジサイ」が 2 週間にわたって開催。会場は、かつては小売店が足り並んでいた「シャッター通り」の旧市街地。築 120 年の空き家が官民協働でリノベーションされ、現代アートの作品展示会場になったが、イベント後の活用について町はノープラン。空き家に戻すのはもったいない！と、改修に参加した町民有志が、大家さんと直接の賃貸契約を結び、活用方針や活動内容についてミーティングを開始する（簗田は立ち上げから参加）。

- 資金** 2009年秋と2010年春の益子陶器市の際に、保健所に催事届けを提出し、飲食の提供や陶器・野菜などの販売で収入を得た。運営主体を「会員制の任意団体」とし、2010年2月に地域住民へ参加を呼びかける説明会を実施し、年会費1000円でメンバーを募った。
- オープン** 新たな改修工事などをメンバー手作業で行い、保健所の営業許可もあり、2010年7月10日に、カフェとギャラリースペースからなる「ヒジノワ」をオープンさせた。
- 設立趣旨** 人が集い、展示やイベントを行い、交流し、学び合うことができる場の創出
- 運営体制** 会員制の任意団体。
◎毎年1月に総会を実施して、事業総括や会計報告、本年度の事業計画など協議。
代表・副代表・会計・カフェ代表・スペース担当・マーケット担当・広報など係制。
初期の登録メンバー40名 | 陶芸家、大工、役場職員、会社員、農家、彫刻家、編集者、主婦など、益子町住民を中心に近隣から参加。
- 活動** ◎カフェ | 登録カフェによる日替わり出店。マージン15%をヒジノワ運営に収める。
◎スペース | 展示会やライブ、ワークショップなどに利用。使用料金などを設定し自主企画にレンタルする。メンバー企画で利用する場合は半額の使用料とした。
春と秋の陶器市の際にはメンバー出店による農産物や工芸品のマーケットを開催



経営

2009年から2018年まで

収入（年会費 1000 円・カフェや物販マージン、スペース使用料）

支出（家賃・光熱費・駐車場代・備品購入・余剰金は改修や補修費用にプール）

◎カフェはチャレンジショップ的な性格もあり登録者も多く、年末年始などをのぞき順調に開店することができ、毎年 30 万円代の繰越を残せる黒字会計が続いていた。

2019 年 | 建物および運営体制・活動内容などをリニューアル

建物改修工事

2015 年前後あたりから、登録カフェメンバーが自分のお店を開店させるなどの卒業が相次ぎ、新しい出店も増えず、改修や備品購入用の繰越積立金が減り始める。2018 年には、年内に赤字になる見通しとなり、今後の運営について「場を締める」のか「改善策を練る」のかミーティングを重ねて検討を始め、大家さんの許可を得て物置になっていた 2 階をシェアオフィスとして改修し家賃を分担する入居者を探すことに。入居希望者 2 名が決まり、その 1 名が（本プロジェクト・地域協力者の廣瀬）改修費用の 8 割を出資することとなり、町の助成金と、SNS での呼びかけで集まった寄付金で改修工事に入り、（2019 年 2 月～）4 月 27 日にリニューアルオープンした。

運営体制

有志による任意団体での運営は変わらず、2019 年より、会員制（年会費 1000 円）と総会を廃止した。理由としては、会員制を続けることで、「ボランティア仕事が多い運営のコアメンバー」と「利用したい時だけ利用する会員」の 2 極化が進み、「責任をもって運営していく主体」が曖昧になりがちであり、年 1 回の総会での決議を待つなど機動性に欠けることの弊害などが生じてきたこと。

2019 以降の運営は、以下の通り。

◎毎月 1 回・第 1 月曜日夜を定例ミーティングとする。

ヒジノワのメンバーリストに登録している人や、活動に関心がある人は参加できるオープン制。前月末までに、代表が希望する議題を募り、議事進行する。毎月のお茶当番を持ち回りで決めており、予算内で趣向を凝らしてお茶菓子などを用意する。

◎代表は 2 名の共同代表制。他、会計、スペースの利用マネージメント担当やカフェの取りまとめ担当など。運営コアメンバーはグループチャットで情報共有。

◎カフェ・スペースの運営は従来通り

◎2 階をシェアオフィスとして活用し、1 階のカフェスペースについても、カフェ開店時・閉店時ともに、コワーキングスペースとしても開放している。

2. これまでにヒジノワで展開されてきた 文化的活動や学び合いの会について

2009年から2019年までに開催された主な催しを、主催者、形態、テーマ・・・など視点で紹介します。

- (1) 主催者の分類
- ①ヒジノワ企画：ヒジノワを会場に、運営メンバーが企画するもの
 - ②レンタル企画：一般の方がヒジノワ使用を申請し自主運営で実施するもの
 - ③益子町の企画：町主催のアートイベント「土祭」に、会場として貸し出すもの
 - ④行政や団体が主催するツアーや視察を受け入れヒジノワを拠点に協力するもの
 - ・益子町「ラーニングバケーション」の会場に
 - ・栃木県地域振興課「関係人口づくりツアー」の受託先として
 - ・栃木県コミュニティ協会ほか、県外自治体や団体の視察受け入れ、
 - ⑤陶芸や工芸の作家を中心に、他県で行われるクラフトフェアなどへ「ヒジノワ」として遠征するもの。
- (2) 定期/不定期
- ①月に1回の開催で、通年でシリーズ企画されるもの
 - ・2011年毎月第1土曜を「土の日」として物販・企画展やワークショップなど開催
 - ・2012年は「土の日」をマーケットとして開催
 - ・2017年「ヒジノワホームルーム」さまざまなテーマでセミナーや上映会など開催
 - ②毎年、定期的に行われるもの
 - ・2011年以降、毎年春と秋に、町内と近隣の女性作家のグループ展「ぬのといと」
 - ③基本的に、単発で行われるもの
- (3) 形態や内容
- ①陶芸・工芸・絵画などの作品発表展示（販売あり、なし）
 - ②マーケット（農産物、加工品、陶器、工芸品など | リサイクルマーケット）
 - ③教室、ワークショップ（幼児～中学生向け、大人向け）
 - ④ライブ（+終了後の夕食交流会）
 - ⑤映画の自主上映会（+監督トーク、感想シェア会、終了後の夕食交流会）
 - ⑥セミナーやトークセッション、勉強会
 - ⑦ヒジノワを拠点としたツアー
 - ⑧講師養成講座の開講
 - ・2011年に「益子の土を用いた光る泥団子ワークショップ」の講師を養成する講座を開講（トヨタ財団助成事業）、2012年以降「土祭」他で修了生がワークショップ開催
 - ⑨地域間文化交流事業
 - ⑩ほか

- (4) ジャンルや
学びのテーマ
- ①美術工芸 | 陶芸、彫刻、版画、絵画、写真、木工、コラージュなど
 - ②花・植物 | 花生け、アレンジメント
 - ③染織・服飾 | 染め、織り、服飾、小物
 - ④農業・環境 | 有機栽培、自然栽培、在来作物、種つぎ、ミツバチと環境
 - ⑤食 | 地域食堂、天然酵母、在来野菜の伝統食
 - ⑥歴史・伝統 | 益子の土、益子の縄文期、伝統芸能、民族映像資料
 - ⑦音楽 | ライブ、歌詞づくりワークショップ
 - ⑧子ども | 自然育児、子ども向け工作・造形教室
 - ⑨地域・社会 | まちづくり、憲法、原発問題、沖縄の基地問題
 - ⑩ほか



土祭2015に会場貸し出し「まちなか映画館」監督トーク



2017年 農家さんと考える、小さな種のお話し会



2017年 シンガー・ソングライターに学ぶ、歌詞づくりワークショップ



2017年 沖縄の基地問題、映画上映会と安全保障の勉強会



勉強会の後は、必ず、夕食交流会で語り合う



2017年の新しい試み2
月に1回の場作り
みんなで友ごはん

有機農家さんの
余り野菜を買い取る。
参加者が、
調理器具や調味料を
もちより
みんなで、その場で即
興で調理をして、
みんなで、いただく。



2019年 6月 アーサー・ピナードさんを迎える勉強会



2019年11月 同じ自治会で育った青年の個展開催「飯山太陽展」



2019年12月 地域間文化交流 茂木町と益子町の交流縄文展